

平成28年度第2回大和市消防運営審議会議事録

平成29年2月27日（月）

午後2時00分から 消防本部3階 第一会議室

（傍聴者なし）

○審議会委員出席者 近藤委員、井上委員、石井委員、富澤委員、新井委員、市川委員、竹本委員、藤井委員、力武委員（計9名）

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 消防長あいさつ

4. 議題

（1）平成28年度主要事業の実施状況について

※消防総務課長より報告。

質疑なし

5. その他

（1）平成28年（1月～12月）の

大和市災害概要（速報値）について

消防署管理課長より説明。

委員：火災の原因の表中で、こんろが31%を占めているが、こんろの主な原因はどういったものか。

管理課長：こんろが原因の火災は鍋を火にかけたまま、その場を離れたことによるものである。

（2）消防車両の更新について

警防課長より説明。

質疑なし

（3）大和市少年消防団の概要について

予防課長より説明

質疑なし

(4) 救急救命課事業報告について

救急救命課長より説明。

委員：AEDの講習に実際に参加したことがある。使用方法や設置場所がわからなければ有効に活用できないと実感している。今後もAEDの講習を継続してもらい、受講者が増えていけば、救える命も増えるのではないか。

(5) 初期消火用資機材整備事業について

消防署管理課長より説明。

質疑なし

(6) その他

- ・消防総務課長より、平成29年度施政方針内の消防事業該当部分について、案内。
- ・3月11日開催の“グラリ”3分一斉行動訓練について、参加の呼び掛け。

委員：阪神淡路大震災では火災でも多くの方が命を落とされたと記憶している。最近では、避難の際にブレーカーを遮断することを推奨されているが、当時のことを思い起こすと、ブレーカーについては、対処するよう指導されていなかったと思う。当時の火災の原因の中で実際に通電火災が多かったのか。

消防長：阪神淡路大震災の火災においては、家具や建屋の崩落によって、コードや電線が破断し、発火したケースや通電時の漏電による火災が多かったと記憶している。最近では、感震ブレーカーを導入している家庭も多くある。ただ、深夜の震災の際には、部屋の中が真っ暗になり、避難に支障が出る場合もある。また、自宅医療をされている方で、電気を必要とする機器がある場合には、全く使用ができなくなってしまう。暗闇の中で避難するため、寝室に、懐中電灯やスニーカーを常備し対策を行う必要があるが、感震ブレーカーも一つの有効手段と考えている。

6. 閉会